

【議事 大分県長期教育計画(「教育県大分」創造プラン2016)に基づく施策の達成状況等について】

NO	分類	意見
1	不読	現在の施策に加えて他の施策をさらに行うか、現在の施策を量的に拡大するといった方法がないと不読率の数値は改善しないと思う。
2		現行の施策に加えて他の施策をさらに行わなければ不読率の数値は改善しないと思う。 大分県では1人1台端末が整備されているので、それを活用した電子書籍等を小中学生にも取り入れていただきたい。 金沢市では「学校電子図書館」の運用に取り組んでいる。このような取組を加えることで読書に親しむ機会を広げていけると思うので、大分県も先進的な読書の環境作りをしていただきたい。
3		今回の学力調査の結果からも高い読解力が求められていると思う。 別府市では以前学校司書が全校に配置されていなかったが、現在は全校に配置され、読書環境が充実してきている。 読書環境の整備について市町村はしっかり行い、県においては市町村の支援を是非行っていただきたい。 読書についてはこれから、大分県の一つの大きな課題になると思うので、読書環境の整備を是非推進していただきたい。
4		本についての情報提供がもっとあればいいと思う。 子供たちは自分の目で活字を読むことに対して苦手意識をもっているように感じるので、何か興味を引くようなものがもっとあれば良いと思う。 本を読む子供と読まない子供の2極化が進んでいるように感じる。
5		幼児期から本を読む習慣を付けなければいけないと思う。
6		漫画の内容は社会変化に対応していると思う。 何が本を読むきっかけになるかわからないので、漫画について本を読んだとカウントするか検討材料になると思う。
7		今の子供たちは楽しいことが周りに溢れていて、読書の楽しさが伝わらないと思う。 読書コンクール等に参加するなどの何か本を読む仕組みを作る必要があると思う。 学力を上げるには本を読んだ後に自分の考えを整理し出力する力が必要だと思う。
8		現在の指標では学力との相関関係が明確にないと思うから、この指標の考え方を改めるべきだと思う。 さらに、一般社会の中で読書率は落ちてきており、子供たちだけ学力との関係があるから読書するべきだというのは無理があると思う。指標自体を見直す必要があり、学力と読書の関係性を研究するべきだと思う。
9	地域とともにある学校	県内の特別支援学校におけるCSの導入は進んでいないが、県立さくらの杜高等支援学校は、CSを唯一導入しており、一般就労を含めて活用している良いモデルである。 また、同校の学校運営協議会の委員には大分県経営者協会の会長等の経済界の人物も入っており、こういった人物から様々な意見をいただくことで、また違った色合いが出てくると思う。 こういった良いモデルを広げてほしい。
10		別府市においても支援が必要な子供が増加しており、学校教育の中で重要な課題だと捉えている。 学校運営協議会の中で特別支援教育について協議して、モデルづくりについて前向きに進めていきたい。
11		支援が必要な子供の保護者は様々な悩みがあり、その悩みを地域の中で相談できる体制があると頼りになると思う。CSを特別支援学校で機能させることは、地域とともに子供を育てるという観点から、今後重要になってくると思う。
12		CSの取組については、地域差がかなりあると思う。 地域の活動に保護者が参加することが今後必要になると思う。

NO	分類	意見
13	学力	これまで求められる力は「読む」「聞く」「書く」だったが、これからは「問う力」が求められる。
14		単に暗記するだとか、答えのわかっている問題を解くのではなく、これから求められるのは考える力や、答えのない課題を解決していく力だと思う。 子供たちは自信があれば自分を大きくしていく力(自己教育力)があると思うので、その力を発揮できる仕組みが必要だと思う。
15	教育DX	ICT教育を指導できる教員の割合が増加しており、今後の増加にも期待している。 新たな課題として生成AIの問題がある。 現状では、生成AIの可能性は、我々の想像を超えているものであることから、学校現場から情報収集するべきだと思う。 また、生成AIを利用するには質問の仕方が大事、それは質問の内容を熟知していないといけなくて、結局は学びが最も重要である。 県内の生成AI活用の方針について示さなければならないと思う。
16	不登校	小学校の教育指導と中学校の教育指導のギャップ(中1ギャップ)があり中学校1年の1学期からだんだんと教室に入れない状況になり、学年が上がるにつれて学校から離れていってしまう。 教師の人間性を含め、学校の在り方、授業の在り方を抜本的に変えないと不登校児童生徒は減少しないと思う。
17		不登校は、子供にとって学校に行きたくなくなる要因と、行きたくない(行く気にならない)要因のせめぎ合いだと思う。 不登校になってからだと個別的な問題になり対応が難しいので、学校に行きたくなくなる要因を増やすことが大事だと思う。
18		不登校の要因は様々だと思う。 不登校担った児童生徒に対して、どのように対応するかといったセーフティーネット等をしっかり考えていく方が重要だと思う。 また、現在スクールカウンセラーは複数校の兼務だが、配置を拡充して、子供たちと向き合う時間を確保するべきだと思う。
19		学校に行かなくてもフリースクール等の様々な選択肢があるが、実際社会に出た際に、集団の中で個として活躍する力を身につけさせるのは高校だと思うので、できれば高校時代にいろいろな考え方をを持った人がいるということを学ばせるには学校に登校して、いろいろなことを学ばせることが重要だと思う。
20		人間が解決できない問題であれば生成AIで解決できる可能性がある。
21		不登校の要因は複合的なものがあり、教育に因果関係が見えないから、やっていることがどのように結果に結びつくかが見えづらい。